
能代山本地区における透析患者様 通院状況と社会資源の活用

日諸千春、北嶋清子、小野良子、工藤津磨子、伊藤淳志、渡辺純一
森屋勝己、菅原 隼*、金野秀樹**、草野実千也***、大坂和彦****

山本組合総合病院 人工透析室、同 MEセンター*

ミナトクリニック**、工藤泌尿器科医院***、秋田社会保険病院****

The Extent of Primary Care Services and Social Benefits Utilization by Hemodialysis Patients in the Noshiro-Yamamoto Area

Chiharu Himoro, Seiko Kitajima, Ryoko Ono, Tsumako Kudoh, Atsushi Itoh

Junichi Watanabe, Katsumi Moriya, Jun Sugawara *, Hideki Konno **

Michiya Kusano *** , Kazuhiko Osaka ****

Noshiro Yamamoto Kumiai General Hospital Hemodialysis Unit

ME Center *, Minato Clinic **, Kudoh Urological Clinic ***

Akita Social Insurance Hospital ****

<はじめに>

全国的に高齢者の透析導入や、透析が長期化することによる高齢化、合併症などにより、(通院に) 介護を必要とする患者様が增加傾向にある。同様に当院の患者様においても合併症、他疾患により通院に介護を必要とする患者様や社会的入院を余儀なくされている患者様も数名いるのが現状である。

能代山本地区では透析施設が能代市中心部に集中しており、今後通院に支援を要する患者様が增加することが予想される。そこで当地域の患者様の通院状況と、4市町村の通院に対するサービスの実態を把握するために調査を行ったので報告する。

<研究方法>

調査期間 平成18年9月1日～9月31日

対 象 能代山本地区で通院透析を行っている患者様 144名
能代山本地区4市町村

調査方法・倫理的配慮の上、記述式無記名アンケート調査

・各市町村へ通院に対する福祉サービスの実態をアンケートと聞き取り調査(図1)

- ・調査期間 平成18年9月1日～31日
- ・対象 ①能代山本地区で通院透析をしている患者様144名
②能代山本地区4市町村
- ・調査方法
①倫理的配慮の上、記述式無記名アンケート調査
年齢・通院手段・時間・距離・費用
今後の不安・介護状況・市町村名など
②通院に対する福祉サービスの実態をアンケートと聞き取り

図1. 研究方法

<結果および考察>

年齢別割合では60歳以上が全体の6割を超えた。秋田県全体の割合に比べ当地区では60歳代がやや多かったが、県内の割合とほぼ同様だった。平均年齢では秋田県で65.54歳、能代山本で65.37歳だった(図2)。

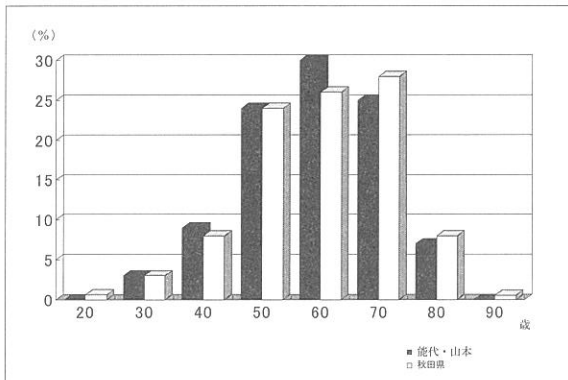


図2. 年齢別患者割合

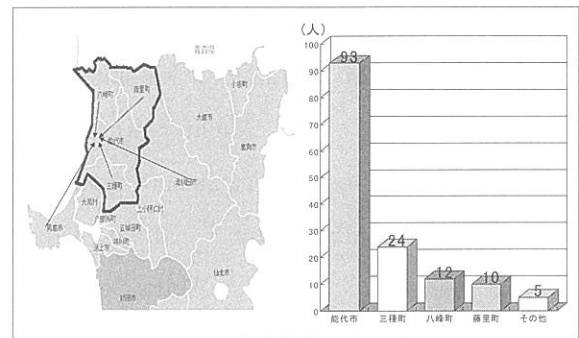


図3. 居住地域別

左のスライドの太枠が能代山本地区の医療圏となる。中心部の能代市にしか透析施設が無く、八峰町・藤里町・三種町の患者様は能代市まで通院しているのが現状。

居住地域別では能代市在住の患者様が93名と多く、ついで三種町・八峰町・藤里町となる。その他は男鹿市・北秋田市など更に遠方になる(図3)。

通院距離は1 km以上5 km以内が最も多く37名いた。

市外の患者様は遠距離からの通院を余儀なくされ、片道20km以上かかる患者様が4人に1人いる。今回の調査対象ではないが男鹿市・北秋田市からも通院しており45kmと長距離の患者様もいる(図4)。

通院手段は公共の交通機関が充実していないのか自家用車での通院が86名で最も多くいた。その他は社会福祉協議会による送迎や介護保険を利用し介助者を伴った通院などだった(図5)。

通院費用は月5,000円以上が71名と最も多くいた。また20,000円以上と記述した方が4名いた(図6)。

現在一人で通院していますかという質問に対し101名の患者様が一人で通院していると答えている。これは全体の三分の二にあたる。この内4割が協力者不在という現実がある(図7)。

家族以外の協力者がいるかではいると答えた27名中、家族以外の協力者の殆どが介護保険による介護者だった(図8)。

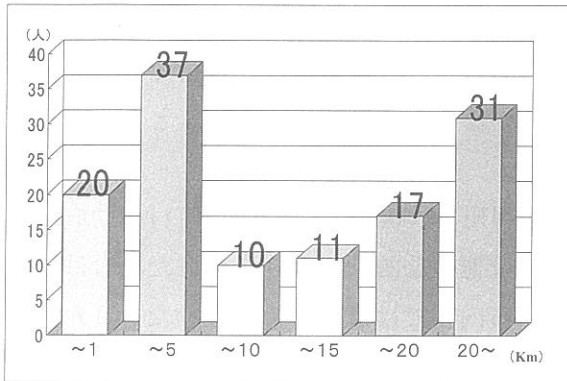


図4. 通院距離

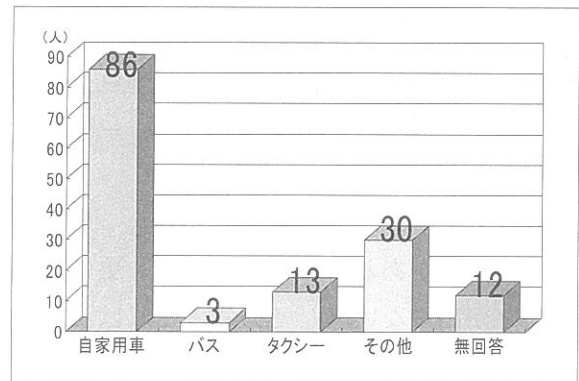


図5. 通院手段

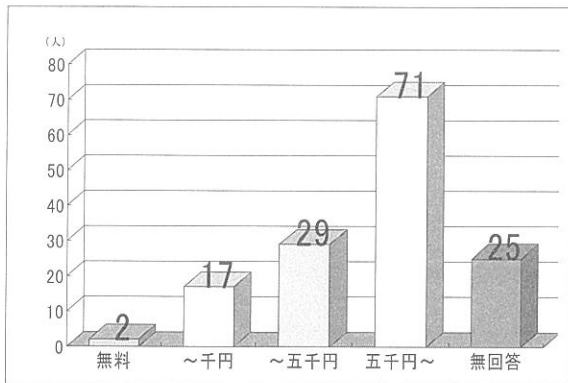


図6. 通院費用

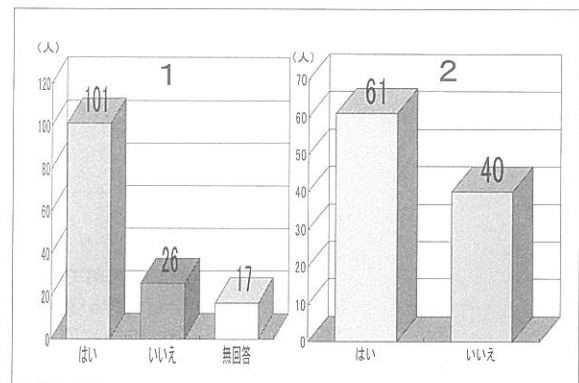


図7. 1. 一人で通院しているか
2. 家族の協力は得られるか

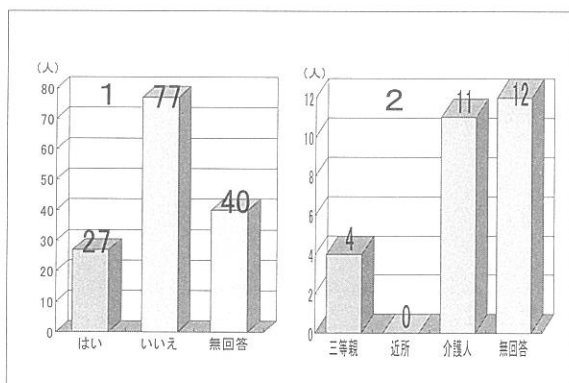


図8. 1. 家族以外の協力者はいるか
2. それはどなたですか

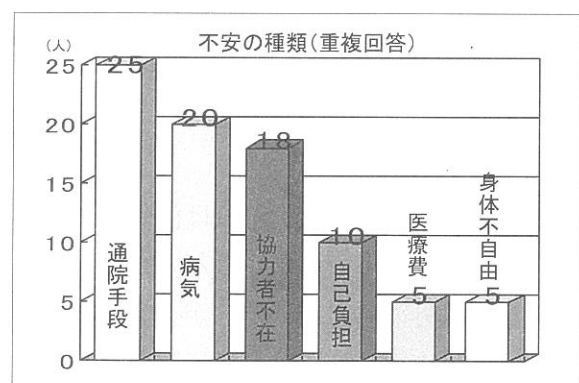


図9. 今後に対する不安

いないと答えた77名や前スライドで家族の協力者が得られないとした患者様は、いずれ身体的な問題を抱えた場合、介護保険や他の社会資源を活用せざるをえなくなると考えられる。

今後に対する不安はあるかでは、あると答えた53名の不安を種類分けした結果、通院手段に対する不安が25名と最も多く、ついで病気に対する不安が20名、協力者不在に対する不安が18名となった(図9)。これは自力通院不可能になった場合、当地区に透析患者様を受け入れる生活施設や病院が無いことも要因と考えられる。当院でも秋田市の病院に転院を余儀なくされるのが現状である。通院に対する不安が最も多かったのもしかたも知れない。

そこで各市町村の通院に対する福祉サービスを調査した。能代市ではタクシーの初乗り分チ

ケットが年24枚（月2枚）。

能代市と合併した旧二ツ井町では自力通院が出来ない患者様に、社会福祉協議会での送迎はあるが、合併に伴い再協議中だった。これはこのサービスがなくなる可能性があることを示唆していると考ええる。

八峰町では月の助成金が5,000円、三種町6,000円、藤里町20,000円だった。市町村の助成金にはバラつきがあることが分かった。更にこれらの助成金は他の公的サービスを受けた場合は受けることが出来ないとしている。これは決して満足の出来る内容ではないのではないだろうか。しかしこの中で注目すべきは藤里町の助成金ではないだろうか。これは藤里町が能代市に最も遠位にあることを踏まえても、自地区に透析施設が無いことを十分に考慮した対応と考える。

通院費用で全体の約半数の患者様が月5,000円以上かかると答えている。多くの患者様は仕事をしておらず年金を頼りに生活していることを考えれば、交通費の捻出は小さいものではないと考える（図10）。

能代市	
・タクシーチケット初乗り分	年間24枚(月2枚)
・旧二ツ井町では社会協議福祉会の送迎があるが合併に伴い再協議中	
・能代市街巡回バスはワンコインのため割引無し	
八峰町	5,000円/月
三種町	6,000円/月
藤里町	20,000円/月
上記助成金は他の公的サービスと併用できない バス・タクシーの割引は身体障害者規定通り	

図10. 四市町村の通院助成内容

<結論>

- ・当地区における透析施設は能代市内に集中している。
- ・今後の通院手段に対する不安が多かった。
- ・家族以外の協力者の殆どが介護保険による介護者だった。
- ・市町村の福祉サービスは通院費用の助成しかなくバラつきがあった。
- ・今後民間サービスを調査・把握し、患者様・家族に情報提供することで、精神的・経済的負担を軽減できるように支援をしていきたいと思う。

参 考 文 献

- 1) 日本透析医学会：わが国の慢性透析療法の現状：2005